パッキンの交換

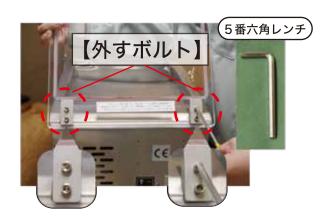
後方

①パッキンの【裂け】や【欠け】を確認したら、パッキン交換をします。





②本体後方から、ふたの根元ボルト 4 つを 5 番六角レンチで外します。(根元に負荷が 掛かる為、ふたを開けたままの状態で外します。 2 人で作業すると、やりやすいです)



【重要】

③ふたと根元の間に高さ調整用の【ステンレス板】 が入っていた場合は、入っていた所が 分かるようにメモして下さい。

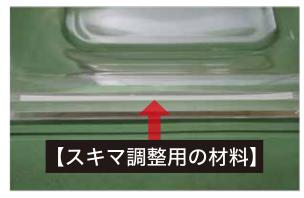




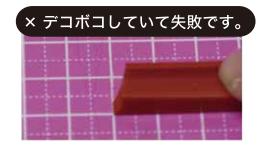
※写真では、右側に2枚のステンレス板が入ってました。
取り付ける際に分かるように覚え書きして下さい。

④ふたをひっくり返して置き、古いパッキンを引っ張って外します。【スキマ調整用の材料】や【白い修正剤】などが入っている場合は、そのままにしておいて下さい。





⑤新しいパッキンの先を片側だけ(もう片方は仕上げの際にカットします)、 カッターで【垂直】にカットします。





パッキンの交換

⑥新しいパッキンを溝に入れます。<u>伸ばしながら入れるのではなく、詰め込みながら</u> 入れると良いです。パッキンの向きはビラビラが外にくるようになります。

重要!

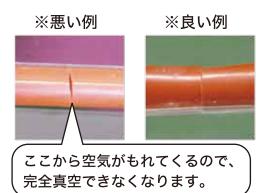




⑦最後の繋ぎ目は、3 ミリほど長めに印を付けてカットし、溝に入れます。 (斜めにカットしたり短くカットすると、そこから空気がもれてしまいます。)







⑧カットに失敗した時は、5センチほど切り、余っているパッキンで【繋ぎ】を作り、 溝に入れます。(垂直にカットして下さい。)







⑨ひっくり返したふたを元に戻し、②で外した根元との取り付け作業をおこないます。 (あらかじめ高さ調整用のステンレス板があった際は、メモしていた所へ忘れずに取り付けて下さい。)





自動真空機 説明書 AZ シリーズ共通 その3

パッキンの交換

■パッキンの交換後に完全真空がされない場合、以下の箇所を確認して下さい■

【症状】パッキンの繋ぎ目から、空気もれている。

【対処】繋ぎ目を垂直にカットする。

※悪い例

※良い例

【原因】



ここから空気がもれてくるので、 完全真空できなくなります。 × デコボコしていて失敗です。

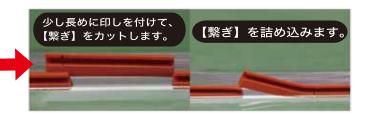
〇真っ直ぐにカットされています。

【対処】

カットの仕方は、「パッキンの交換・説明書その 2」 の⑦と⑧をご参照下さい。

〔追記〕

「交換後 1 ~ 2 ヶ月経ってパッキンのゴムが戻ろうとする性質で、繋ぎ目にスキマが生じた際は、「説明書その 2」®の【繋ぎ】を作成して下さい。 ※その為に余ったパッキン、あるいは古いパッキンを少し取り置き下さい。

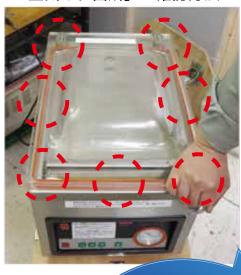


【症状】・パッキンと本体の接触面にスキマがあり、空気がもれている。

- ・フタを押さえる場所によって、真空できたりできなかったりする。
- ・フタが固い。(思い切り体重を乗せて閉めないと作動しない)

【対処】空気がもれている所に、「スキマ調整用の材料」を入れる。

■「空気もれ箇所」の確認方法■



電源ON後、マークの所を一箇所だけ手で押さえ、フタがぴたっと吸い付き、真空を開始すれば正常です。 (一箇所ずつ試していきます。)

吸い付かない場合は、押さえた箇所以外にスキマが 生じていないか確認して下さい。

その4へ続きます。

【原因】

このスキマが原因です。



・液体を絶対こぼさないこと! もしこぼしてしまった! すぐに拭きとること! (必ずシールユニットの下と、)

自動真空包装機 説明書 AZ シリーズ共通 その 4

パッキンの交換

■スキマ調整用の材料を用意します■

厚紙などを 5 ミリ幅に切り、透明のフタの溝とゴムパッキンの間に 入れる事でゴムパッキンを盛り上げ、スキマを小さくします。



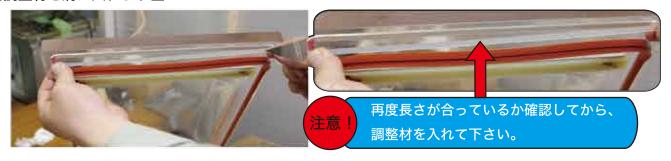
- ・材料はテッシュペーパー箱の厚紙などで大丈夫です。
- ・スキマが大きい場合は、さらに厚紙をのりで 重ねて厚い調整材にして下さい。



■ゴムパッキンをダメな箇所のみ、めくります。※絶対にパッキン全部を外さないで下さい)■



■調整材を溝に入れます■



注

スキマに応じた厚さの調整材を入れます。 位置が安定しない場合は、のりなどで 固定してから、入れて下さい。

※のりを塗る際、あまりはみ出ないように塗り、 満に固定して下さい。のりが多量にありますと、 メンテナンス時の妨げになりますので、 ご使用は適量でお願い致します。

■パッキンを戻します■

